

平成 3 0 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	4 8	学校名	県立土浦第一高等学校			課程	定時制			学校長名	杉田 幸雄					
副校長・ 教頭名	副校長 明賀 靖子		教頭 鮎川 好夫						事務(室) 長名	荒木 克義						
教職員数	教諭	7	養護 教諭等	1	常勤 講師	1	非常勤 講師	1	実習教諭, 実習 講師, 実習助手	0	事務職 員	5	技術職 員等	6	計	25
生徒数	小学科	1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	18	18	19	6	14	8	6	7	57	39	4				

2 目指す学校像

- ・豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、自立し、他者と協働して生きていくために身に付けなければならない力を育てる。
- ・教職員の共通理解の下、生徒一人一人がもつ能力・適性を生かし、社会に貢献し得る人間の育成を目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	多様な生徒が在籍しており、生徒間で学力や、学習に取り組む姿勢・意欲に差が見られる。	社会人として身に付けてほしい知識をいかに修得させるか。
特別活動	六つの運動部と、二つの文化部が月水金の週3日活動している。学校行事への取り組みに、自主的活動が見られる。	コミュニケーション力を育み、周囲と協力して主体的に取り組む姿勢を養う。
生徒指導	年間の退学者数10人中8人は、進路変更によるものであった。また、生徒の中には、極めて内向的な生徒や頭髪の乱れ、集中力に欠ける生徒等が見受けられる。	基本的な生活習慣を確立し、将来の夢や目標を設定し行動できるようにする。
進路指導	生徒の進路意識には大きな差があり、進路希望は多様である。家庭状況が進路選択の障壁になってしまう者もいる。	個に応じた進路指導の推進と、進路情報の提供が必要である。
保健室指導	不登校を経験している生徒が多く、年間の保健室利用者数は一昨年比で2倍となる529人であった。	担任や養護教諭を中心に、細やかなサポート体制の構築が必要である。

4 中期的目標

- 1 基本的な生活習慣の確立と個性の伸長を図り，豊かな人間性・社会性を育成する。
- 2 教師と生徒の信頼関係を深め，心の触れ合う学年・ホームルーム運営を推進する。
- 3 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を目指し，生徒相互学習を通し基礎学力の向上を図る。
- 4 進路希望の多様化に対応できるように，個に応じた細やかな指導の充実を図る。
- 5 個別指導を通して生徒理解を深め，適時・適切な指導・助言を与え細やかな生徒支援を目指す。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力定着と授業の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の能力の向上を図るため，個に応じた授業を行い，基礎学力の定着に努める。 ・授業において，個々の生徒の学習を支援しながら知識と技能の着実な習得を図る。 ・全ての教員で学習指導の工夫・改善を図り，分かる授業を実践する。
進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3修3卒希望者への積極的な支援に努める。 ・生徒各自の希望に沿った細やかな指導を実施し，各生徒の進路実現に努める。 ・進路情報の収集と提供に努め，進路に関するホームルームなどの充実を図る。
基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員であることを自覚させ，責任ある行動がとれる人間の育成に努める。 ・規範意識の高揚を図るとともに，清潔感のある身だしなみを意識させる。 ・挨拶の励行に努め，好ましい人間関係をつくる能力を身に付けさせる。
個別指導(生徒理解)の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する個々の支援を充実し，細やかな心のケア・学習相談・進路相談を実践する。 ・個別面談を通して，生徒理解を深めるとともに，生徒間及び教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。
学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを毎月更新し，学校情報を積極的に発信する。 ・中学校訪問等を充実させ，教育活動を積極的に紹介するとともに，地域社会に定時制教育の理解を求める。